

フレーズ・リーディングを利用した 外国人留学生向け日本語読み練習教材の開発と評価

三浦麗† 松永信介† 安藤公彦† 稲葉竹俊† 近藤真宣††

東京工科大学大学院 バイオ・情報メディア研究科 メディアサイエンス専攻†
拓殖大学国際学部††

1. 研究背景

1.1 はじめに

外国人留学生にとって、日本語の読み・読解は日本語を学習する際の一つの障壁となることが多い。日本語には英語などのように単語の間にスペースがない。特に、「は」や「が」などの接続詞の後に平仮名が続くと、単語間の区切りを見出すのが難しくなるといわれている。

1.2 フレーズ・リーディングとは

そこで、英語学習において定評のある読み練習であるフレーズ・リーディングに着目した。^{[1] [2]}

フレーズ・リーディングとは英語学習で定評のある読み練習法の一種であり、別名チャンク・リーディング、スラッシュ・リーディングとも呼ばれる。

日本語の話者が、英語の長文を読む際、通常は主語を訳してから文の文尾まで行き、文頭に向かって訳していく。しかし、それでは文尾から文頭に向かって読みしなればいけないため、長文を読む際には非常に時間がかかる。また、訳す事に注意が行ってしまい、文章全体の意味を捉えにくい。

そこでフレーズ・リーディングでは、文章を短い意味の塊（チャンク）に分け、チャンクごとに意味を訳す。そうすることで、チャンクごとに要点だけを捉えることができ、文章全体の意味を理解し易くなる。またフレーズ・リーディングでは、文頭から文尾に向かって順々に訳していくため、返り読みをすることがない分、文を読む速度が格段に上がり、長文を短時間で読むことができるといわれている。

しかし、英語学習ではすでにその有効性が指摘されているフレーズ・リーディングであるが、日本語学習においては全く活用されていないのが現状である。そこで、フレーズ・リーディングを日本語学習に取り入れることを本研究では提案する。

1.3 先行研究

前述したように、フレーズ・リーディングを日本語に応用した研究は皆無に等しいが、英語の学習への活用した研究事例として、「読解力向上のためのチャンキングの指導に関する研究」^[3]がある。

この研究は、高校1年生2クラス82名、3年生1クラス41名を対象に、フレーズ・リーディングを用いた場合と用いない場合の英語の読みの速読力・正答率・意識変化の比較を実施しており、1年生、3年生の速読力は共に上昇し、正答率は1年生が減少、3年生は上昇したという結果となった。意識調査では、97%の学生がフレーズ・リーディングは読解の役に立つと回答した。

この研究からも、フレーズ・リーディングは速読力向上の効果があると予想され、日本語の読み練習においても、フレーズ・リーディングを用いることで速読力向上が実現されるかを検証する必要があると考えられる。

2. 研究方針

スマートフォンが近年国内外問わず所有者が増えており、これからも更に増えると考えられる。外国人留学生の多くもスマートフォンを所持している。スマートフォンを端末すれば、高機能で場所を選ばずに日本語の学習が可能となると考え、教材はスマートフォン向けに開発することとした。

なお、従来のテキストベースにおけるフレーズ・リーディングはスラッシュで区切られているだけであつたが、今回スマートフォン向けに作ることでスラッシュを用いずに色の濃淡でチャンクの区切りを表現できる。また、注目チャンクが動的に切り替わっていくことで、学習者はその早さで文章を読むことを強制させることができる。それによって学習者は読む速度を身につけ、普段日本語文章を読む時その速度に近い早さで読むことができるようになるのではないかと考えられる。

本研究ではこれらの方針に基づいて教材を開発し、フレーズ・リーディングの日本語学習における有効性とスマートフォンの教育メディアとしての有効性の2点を主たる検証の視点として研究を進めた。

Title : The Development and Evaluation of E-Learning Materials on Phrase Reading in Japanese for Foreign Students in Japan

Rei Miura† Shinsuke Matsunaga† Kimihiko Andou†
Taketoshi Inaba† Masumi Kondou††

† Graduate School of Bionics, Computer and Media Sciences,
Tokyo University of Technology

†† Faculty of International Studies, Takushoku University

3. 教材概要

3.1 学習者の管理

本教材では PHP と HTML を用いて、サーバーに学習者の学習履歴を送信している。学習者は ID とパスワードを設定することで、各々が学習状況に応じた状態で教材を使用でき、ID によってどの学生がどの時間にどの文章を何問解いたかをサーバーで確認できる。

3.2 読み練習

教材の読み練習パートでは最初は「はじめる」のボタンのみが表示されており、「はじめる」を押すことにより図1のように注目チャンクが黒文字化して読めるようになっていく。注目チャンクは時間の経過と共に移行していき、学習者はその注目チャンクを目で追って読んでいくことになる。注目チャンクが終了したチャンクは灰色文字化して読み返すことができる。注目チャンクの表示が全て終了すると「確認問題へ」のボタンが現れ、確認問題の画面へ移行できる。

事前実験にて、この表示方法を含めた表示方法が違うパターンを4つ用意し、外国人留学生に見せてどの表示方法が適切かを判断した結果、この表示方法に決定した。

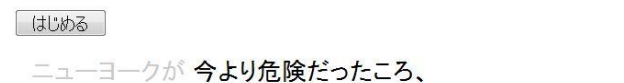


図1 文章の表示方法

3.3 確認問題

確認問題では、文章に関する問いが4問あり、回答ボタンは図2のようにラジオボタンとなっている。学習者は文章に合った回答ボタンを押してから「送信」ボタンを押すことで、何問正解したかの結果画面に移行できる。確認問題は文章によって○×問題と選択肢問題がある。

問題文を読み、正しい選択肢を選びなさい。

問1: 「法の世界の動物たちは『迷惑な存在』なので」とはどのような意味か

- 動物はいつでも、法律に違反する迷惑な存在である
- 動物は法律とかかわる場合、迷惑な存在として扱われる
- 動物は損害賠償を求められるような迷惑な存在でしかない

図2 確認問題

3.4 表示速度

各文章は「おそい」「ふつう」「はやい」「とてもはやい」の4つの表示速度に分かれており、学習者は自分のレベルに合った表示速度を選択できる。チャンクには長さによってA、B、Cと割り振り、それぞれに表示速度を設定した。各表示速度によるチャンクの表示時間は以下の通りである。

「おそい」…A: 3秒、B: 3.6秒、C: 4.5秒

「ふつう」…A: 2秒、B: 2.4秒、C: 3秒

「はやい」…A: 1秒、B: 1.2秒、C: 1.5秒

「とてもはやい」…A: 0.5秒、B: 0.6秒、C: 0.75秒

3.5 教材情報

読み練習の文章は全部で24つあり、それぞれにレベル1~3の難易度が割り振られている。最初はレベル1の文章しか見ることはできないが、レベル1の全ての文章の確認問題をやると、レベル2の文章を見ることができるようになる。同様にレベル2の全ての文章の確認問題をやると、レベル3の文章を見ることができるようになる。レベル3の全ての文章の確認問題を終わると、事後テストとなる「終わりの問題」と教材のアンケートを行うことができるようになる。

4. 評価方法

教材には事前テストとして「始めの問題」と、事後テストとして「終わりの問題」が収録してある。これは読み練習とは違い、文章が最初からすべて表示されているので、自分の本来の読む早さで読まざるを得なくなる。ここで時間を計測し、「始めの問題」と「終わりの問題」を比較することで、読み練習によって学習者の速読力が向上したかを確認することができる。これを拓殖大学の外国人留学生にやってもらい、教材の効果検証を行う。また、「終わりの問題」の後には教材に関するアンケートがあり、そこで本教材の評価を行ってもらおう。

参考文献

- [1] 「英文速読力アップ法：センター試験とチャンク分けリーディングの関連性を通して」
<http://www.modern.tsukuba.ac.jp/~ushiro/Research/2004/040922Yatsu.html>
- [2] Harumi Nishida 「The Effects of Phrase Reading and Reading. Aloud Practice on Reading Skills」
<http://leo.aichi-u.ac.jp/~goken/bulletin/pdfs/N019/06NishidaH.pdf>
- [3] 「読解力向上のためのチャンキングの指導に関する研究」
<http://www.chiba-c.ed.jp/shidou/kenkyu/H20/eigol.pdf>